

2017年12月11日
公益社団法人 東京広告協会

大学生の【マナーに関する調査】結果発表！

大学生の新・マナー基準は“忖度”と“損得”

- ✓ 大学生の73.3%が、自分が「友人・知人からどう思われているのか気になる」と回答
- ✓ 大学生の65.1%が、マナーが悪いのは「大学生」と回答
- ✓ 大学生が「ついやってしまうマナー違反」第一位は、「LINEや地図アプリ利用で歩きスマホ（29.6%）」第二位は、「イヤホンを着用しながらの走行や二人乗りなど自転車のマナー違反」
- ✓ LINEの“既読無視”は新しいマナー違反に。「自分はやらない」大学生が80.0%、「周囲がやると気になる」大学生が76.6%

公益社団法人 東京広告協会では、このたび、首都圏の大学生1008名を対象とした「大学生の【マナーに関する調査】」の結果をまとめました。この調査は、東京広告協会が主催する「大学生意識調査プロジェクト FUTURE2017」が実施したもので、調査の企画・実施・分析など一連の作業をすべて大学生自らが行っています。

調査結果では、マナー悪化の主体は「大学生自身」と思う人が全体の7割にもものぼるいまだきの大学生が、独自のマナー基準を持っていることが見えてきた。そこには、「友人・知人の目線を強く気にする」ことから生まれるマナー意識と、「合理的であること」を重視する大学生ならではの新しいマナー意識（「忖度と損得」と命名）があることが浮き彫りになっています。

【主なトピックス】

① 世の中のマナー悪化の主体は“大学生自身”

～今、マナーが悪いのは「大学生」と答えた大学生は65.1%

② スマホ/SNSに関して、世間と異なる“マナーのグレーゾーン”が存在

～ついやってしまうマナー違反、第一位は、「LINEや地図アプリ利用で歩きスマホを（29.6%）」

～「SNS上で実践してしまっているマナー違反」TOP3は、「LINEにすぐ返事をださない（61.9%）」「目上の人にlineで絵文字/スタンプを使う（49.6%）」「SNS上の写真で、本人に確認せずにタグ付けをする（47.6%）」

～許容できるマナー違反は、「飲食店での料理の写真撮影（82.2%）」「満員電車でのスマホ利用（72.3%）」

～一方、許容できないマナー違反第一位は、「LINEで会社に退職届を出すこと（95.0%）」

③ “友人・知人の目”を気にした“忖度(ソントク)感情”がマナー基準のひとつ

～大学生の73.3%が、自分が「友人・知人からどう思われているのか気になる」と回答

～大学生の72.7%が「自分は空気が読めるタイプだと思う」と回答

～LINEの“既読無視”はマナー違反。自分はやらない大学生が80.0%、周囲がやると気になる大学生が76.6%

④ “無駄・非効率”を避ける”損得(ソントク)勘定”がもうひとつのマナー基準に

～大学生の54.4%が、自身を「合理的なタイプだと思う」

～大学生の42.6%が「時代遅れ・無意味なマナー」が多いと感じている

本レポートでは、さらに

- 「デジタルは進化、マナーは悪化 ～悪いのは“大学生”、でも“自分”じゃない矛盾～」
- 「大学生のマナー観に“グレー・ゾーン”あり ～世の中とは基準がズれる、大学生のスマホ利用～」
- 「マナーの基準は、“世間の目”より“友達の間”～人間関係に影響を与える違反はダメ、ゼツタイ。～」
- 「合理的」という名の自己解釈 ～マナーでも無駄・非効率を嫌う大学生～」
- 「引き継ぎたい伝統、引き直したい基準 ～マナー先進国に生きる大学生の誇りと本音～」

といった内容に関しての詳細な示唆を得ています。

今回ご紹介したデータ/ピックアップは、調査結果の一部です。ご興味をもたれた方は、是非本レポートをご参照いただければと存じます。

調査概要

【調査主体】

大学生意識調査プロジェクト(FUTURE 2017)

- このプロジェクトは首都圏の大学でマーケティングを学んでいる大学生によって結成され、1995年より続いているものです。
(※FUTUREとは、Five Universities in Tokyo, Uni-REsearchの略です)
- 本調査の企画・実施・分析など一連の作業は、すべて大学生自らが行いました。

【協賛・企画協力】

公益社団法人 東京広告協会

東京広告協会は上記プロジェクトからの要請を受け、調査実施にあたっての費用協賛や企画・技術指導などを全面的に支援しています。

【調査目的】

ワールドカップで日本人サポーターが試合後にゴミを拾ったことが世界から賞賛された、というニュースは記憶に新しいが、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定に伴って、分煙化が進み、ゴミの分別も世界一細いといわれている日本はマナー先進国として定着しつつある。その一方で、ポケモンGOで話題となった「歩きスマホ」に代表されるテクノロジーの進化等によって露見した新たなマナーについて多く報道されるようになった。このようなまだ制度化されていないマナーに関して現在の大学生はどのような意識をもっているのだろうか。現在の大学生のマナーに関する意識を本調査によって紐解いていきたいと思う。

【調査期間】

2017年7月10日～7月31日

【調査方法】

アンケート自記入法

【調査対象者】

首都圏の大学に在籍する大学生1～4年の男女

【調査対象大学】

青山学院大学
駒澤大学
上智大学
専修大学
千葉商科大学
日本大学

【サンプル数】

有効回収数1,008票

【この調査に関するお問い合わせ先】

本速報は結果のごく一部です。詳細なレポートもPDFをご用意しております。
グラフのデータもご提供可能です。お問い合わせは下記までお願いします。

公益社団法人 東京広告協会 担当:高堀

2 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル7階 Tel:03-3569-3566(代表)



大学生の新・マナー常識

「忖度」と「損得」

大学生1,000人にきいた
「マナー」に関する意識調査 結果報告書

2017年12月

大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2017)

公益社団法人東京広告協会

【CONTENTS】

調査結果サマリー5
レポートトピックス6～15
定点観測結果16
レポートの詳細篇目次17

大学生の新・マナー基準

“忬度”と“損得”

～大学生のマナー意識は、時代・場所・相手に合わせた、環境適応型!?～

ここまでみてきた現在の大学生のマナー意識をまとめてみたい。

マナーとは社会の中で気持ちよく過ごす為の知恵や気遣いであり、明文化されていない。そのため、曖昧なマナーがその時代時代に物議を醸すことが多い。この10年の間で特徴的なことは、やはり携帯電話やスマホ、SNSが急速に普及したことによる「世の中のマナーが悪い」という意味の質的な変化だ。この領域はまだまだマナーの基準が曖昧なのかもしれない。また、彼らはそんな世の中のマナー悪化の原因を大学生と考える一方、自分自身はマナーを守っている、という自己矛盾を抱えており、世の中の大学生のマナー悪化を客観的に捉えている。

そんな大学生のマナー観をみていくと、マナーに関する一定の知識や一般常識は持っているものの、やはり携帯電話やスマホ、そしてSNSに関しては、世間一般の基準と異なる大学生独自の判断基準を持っており、世の中のマナー観との間にズレが生じているようだ。

その大学生独自のマナー基準を掘り下げていくと、世の中とズレる理由となる2つの独特なマナー意識がみえてきた。

一つ目は、友人・知人からの目線を強く気にしているということだ。InstagramをはじめとしたSNS上では、タグ付け・ストーリーなどによって、普段の生活や行動が容易に友人・知人コミュニティ内に拡散してしまう。そんな状況の中で過ごす彼らにとってマナーを守るということは、ルールとして守っているのではなく、仲間と上手に付き合うための気遣いとして守っているのかもしれない。

そして二つ目は、マナーにも合理性を求めているということだ。デジタルネイティブといわれ、テクノロジーの進化により様々なことが合理化しつつある社会の中で過ごしてきた。それにより、混んでいない電車の中で優先席に座ることや友人との会話中にスマホをいじることに自分なりの合理的な解釈をつけることで、そもそもそれらの行為をマナー違反だと感じていないということも判明した。

この今どきの大学生ならではのマナー観を、我々は“忬度と損得”という言葉で表現したい。友人・知人との関係性を崩したくないという周囲を慮る感情＝“忬度（ソントク）感情”と、時間やお金の無駄を嫌い、自分が損をしないように、そしてより効率的に暮らそうとする合理的な意識＝“損得（ソントク）勘定”。大学生のマナーは、この二つの特徴的な意識が常に複雑に絡み合うことで、独自のマナー基準を形成しているようだ。

2020年以降、訪日／在留外国人が増加し、日本社会では価値観の違う人々が生活することが当たり前になっていく。こうした中では、今の大学生のマナーは、友人・知人という狭い世界のなかで最適化を図るだけのものかもしれない。また、彼らが引き継ぎたいという伝統的な日本のマナーが必ずしも正しいわけでもないだろう。マナーは相対的なものであり、時代・場所・相手によって、望ましいとされる行為は大きく変わるものだ。社会構造が大きく変化する今こそ、新しいマナー観を持った彼らが中心になって、今の時代のマナーとは何かを考え、議論し、実践することで、日本のマナーの境界線を引き直すべきなのではないだろうか。

【レポートピックアップ①】

デジタルは進化、マナーは悪化

～悪いのは“大学生”、でも“自分”じゃない矛盾～

本章では、現在の大学生の“世の中のマナー”に対する意識をみていきたい。彼らは、“世の中のマナー”をどうみているのだろうか。

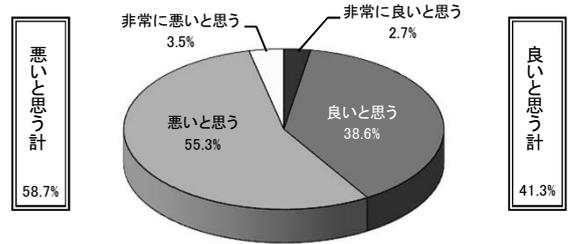
はじめに、最近の世の中のマナーについて、どう思うか聞いたところ、「悪いと思う(計)」と回答した人が全体の約6割と高い結果となった(図表1)。さらに、世の中のマナーが「悪いと思う(計)」と回答した人に対して、以前と比べ、最近の世の中のマナーがどのように変化したか聞いてみると、「悪くなった(計)」、「変わらない」と回答した人を合わせると全体の約9割という結果となった(図表2)。これらのことから、大学生は世の中のマナーを以前から悪いと思っており、現在もなお悪いと感じているようだ。

それでは大学生は、何をもって世の中のマナーが悪くなったと思っているのだろうか。カテゴリー別のマナーの良し悪しについて聞いてみると「SNSにおけるマナー」「携帯電話に関するマナー」が「悪くなったと思う」と回答した人がそれぞれ全体の約6割、次いで、「インターネットに関するマナー」が約5割という結果となった(図表3)。また、10年前に聞いた同様の質問の結果と比較すると、「電車やバスなど公共交通機関におけるマナー」を「悪くなったと思う」と回答した人は、約21ポイント減少する一方で、「携帯電話に関するマナー」については「悪くなったと思う」と回答した人が約11ポイント増加するという結果となった(図表3)。これらのことから、大学生にとって世の中のマナー悪化の理由は質的に変化しており、主にこの10年間で普及したスマホやSNS等のマナー悪化が世の中のマナーを悪化させていると現在の大学生は感じているようだ。

では、そんな“世の中のマナー”の印象を作っているのは一体誰なのだろうか。「今、マナーが悪い」と思うのは誰か聞いたところ、「大学生・短大生・専門学生」が約7割と最も多く、次いで「高校生」が約6割、「中年以上のサラリーマン」が約5割と続く結果となった(図表4)。さらに、「最もマナーが悪い」と思う人々を聞いたところ、「大学生・短大生・専門学生」が約3割と最も多いという結果となった(図表4)。これらのことから、今どきの大学生は、世の中のマナー悪化の原因が大学生自身によるものだと思っているようだ。

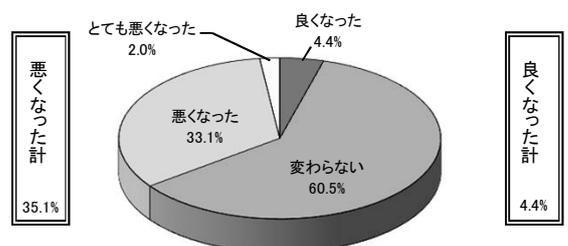
図表1 世の中のマナーに関する意識

<全体:n=1008>



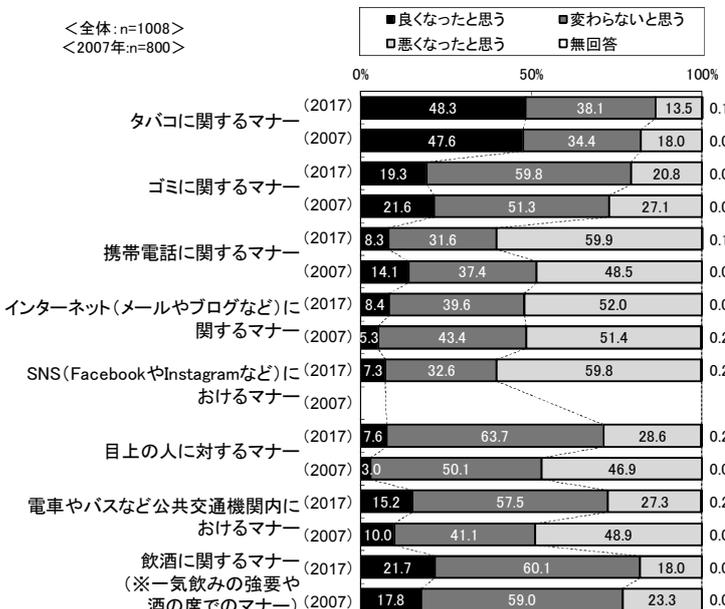
図表2 世の中のマナーの変化

<世の中のマナーが「悪いと思う」と回答した人ベース:n=592>



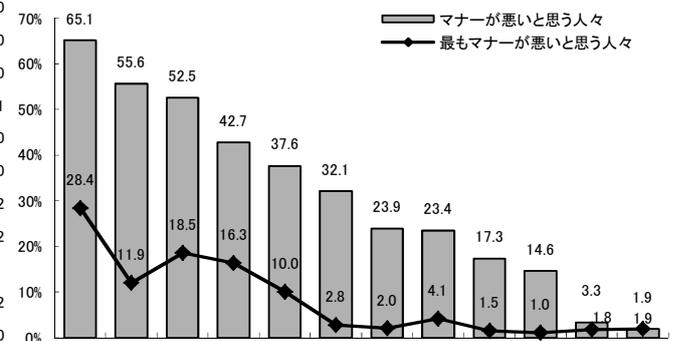
図表3 世の中のマナー変化の理由

<全体:n=1008>
<2007年:n=800>



図表4 世の中のマナーの印象を作っている属性

<全体:n=1008>

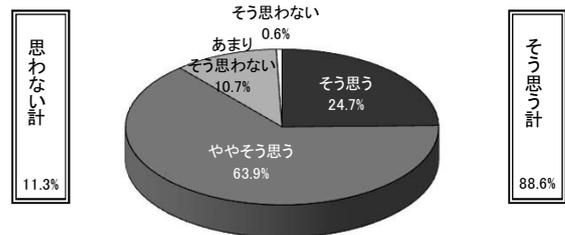


では、大学生自身のマナーはどうだろうか。あなた自身が公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、マナーをしっかり守っていると思うか聞いてみると「そう思う（計）」と回答した人が約9割と高い結果となった（図表5）。また、家庭での「しつけ」に関して、「厳しく育てられた（計）」と回答した人は、全体の約7割（図表6）、小中高で「マナー」に関して十分な教育を受けた（計）」と回答した人も全体の約7割という結果となった（図表6）。これらのことから、世の中のマナーを悪くしているのは大学生と指摘しつつ、自分自身は家庭や学校でしつけや教育を受けてきた自負もあり、マナーをしっかり守っているという全く逆の結果となった。ちなみに「マナーが悪いのは大学生」と回答している人のうち、自分自身はマナーを守っているかという質問に「そう思う（計）」と回答した人は約9割も存在していることから、マナー遵守に関して世の中の大学生と自分を区別している可能性が高いことがわかった（図表7）。

以上のことから、大学生は世の中のマナーはデジタル化の進展により悪化していると感じている。また、それをもたらしている主体は大学生自身だと捉えつつも、自分はマナーを遵守しているという一種の矛盾を抱えており、世の中の大学生のマナー悪化を客観的に捉えている側面もあるようだ。

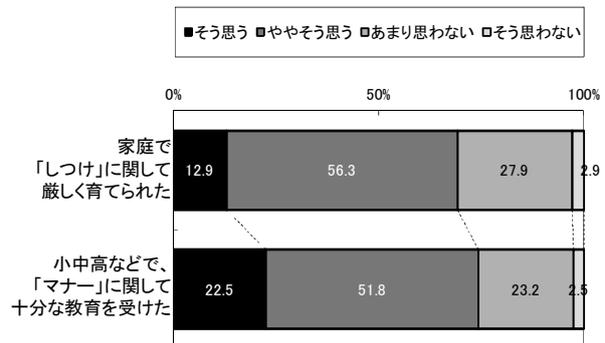
図表5 大学生自身のマナー遵守に関する意識

<全体:n=1008>



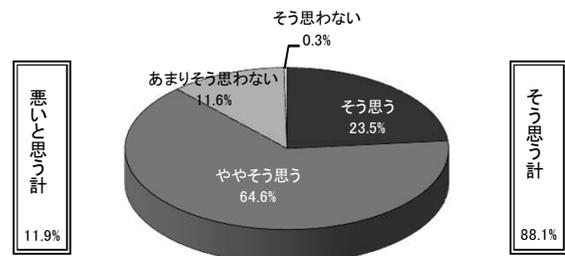
図表6 しつけやマナー教育に関する自己評価

<全体:n=1008>



図表7 「世の中のマナーの印象を作っている属性×自身のマナー遵守の有無

<「マナーが悪いのは大学生」と回答している人:n=656>



【レポートピックアップ②】

大学生のマナー観に“グレー・ゾーン”あり

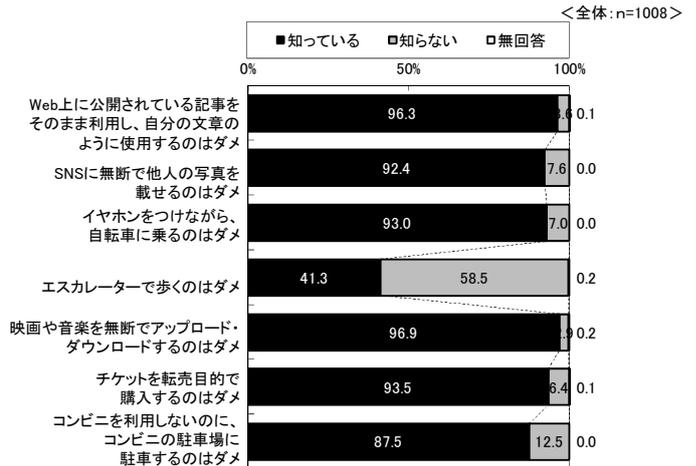
～世の中とは基準がズれる、大学生のスマホ利用～

前章では、世の中のマナー悪化の要因が大学生にあると指摘する一方で、自身はマナーを遵守しているという自己矛盾について触れたが、本章では、そんな大学生の具体的なマナー観についてみていきたい。

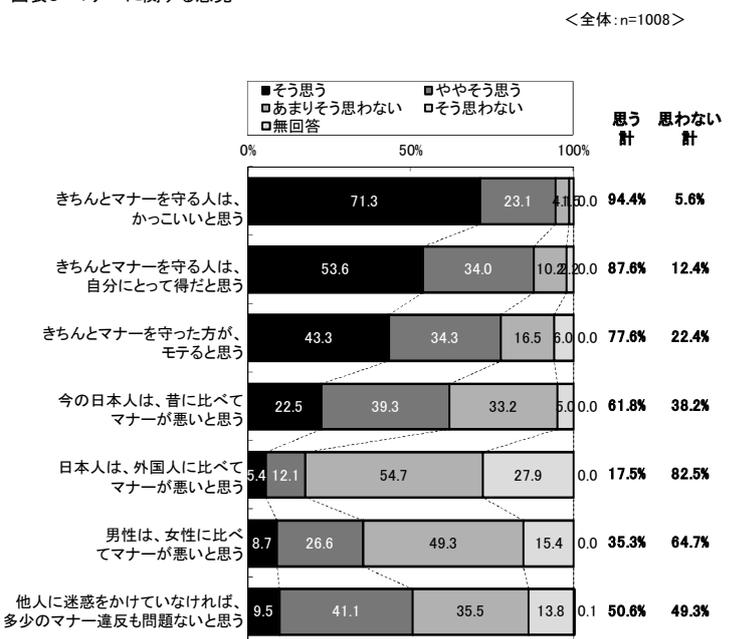
まず、現在の大学生が世の中で一般的にタブーとされているマナー違反についてどの程度認知しているか聞いてみると、「エスカレーターで歩くのはダメ」以外の多くの項目において「知っている」と回答した人が全体の9割を超す結果となった（図表8）。これらのことから、マナーに関する知識はしっかりもっているようだ。さらに、マナーに関する意見について「きちんとマナーを守る人は、カッコいいと思う」について「そう思う（計）」と回答した人が全体の約9割（図表9）、「きちんとマナーを守った方が、モテると思う」が約8割（図表9）とマナー遵守をポジティブに捉える意見までもっている。

その一方で、各シチュエーションにおける様々な行動の実践状況について聞いてみるとこれまでマナー優等生的な大学生の意外な側面がみえてきた。具体的には、「する／あてはまる」と回答した人は、『電車内』において「優先席近辺でスマホをいじる」が約8割、『街頭』でも「歩きながらスマホをいじる」が約9割、『授業中』でも「携帯電話を切らない」が約9割という結果となった。また、「通信・SNS」においては、10項目中7つの行動について約半数以上の人が「する／あてはまる」という回答をする結果となった（図表10：P10に記載）。さらに、「やっちはいけないと思いつつも、ついやってしまうこと」をみてみても「なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと」が1位となる結果となった（図表11）。これらのことから、旧来のマナー違反にあたるような行動は取っていない人が多い結果だったが、スマホやSNS周りのマナー違反とも受け取れる行為・行動は平気でやっている実態が浮き彫りとなった。

図表8 一般的にタブーと言われていることの認知



図表9 マナーに関する意見



図表11 やっちはいけないと思いつつも、ついやってしまうこと

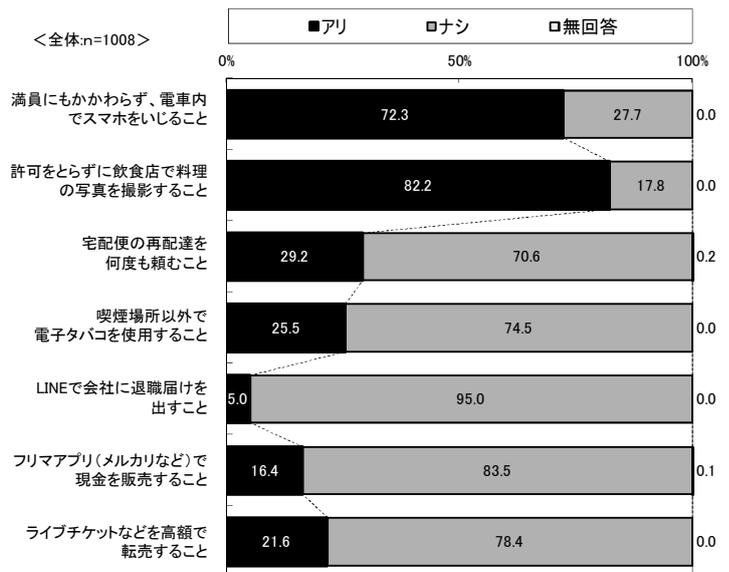
<全体:n=1008>

順位	やっちはいけないと思いつつも、ついやってしまうこと	人数
1位	なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと	298人
2位	法律上はしてはいけないと知りつつ、イヤホンを着用しながらの走行や二人乗りなど自転車のマナーが悪くなってしまうこと	114人
3位	急いでいるときにエスカレーターで歩いてしまうこと	88人
4位	信号を無視してしまうこと	79人
5位	ゴミを分別せずに捨ててしまうこと	44人

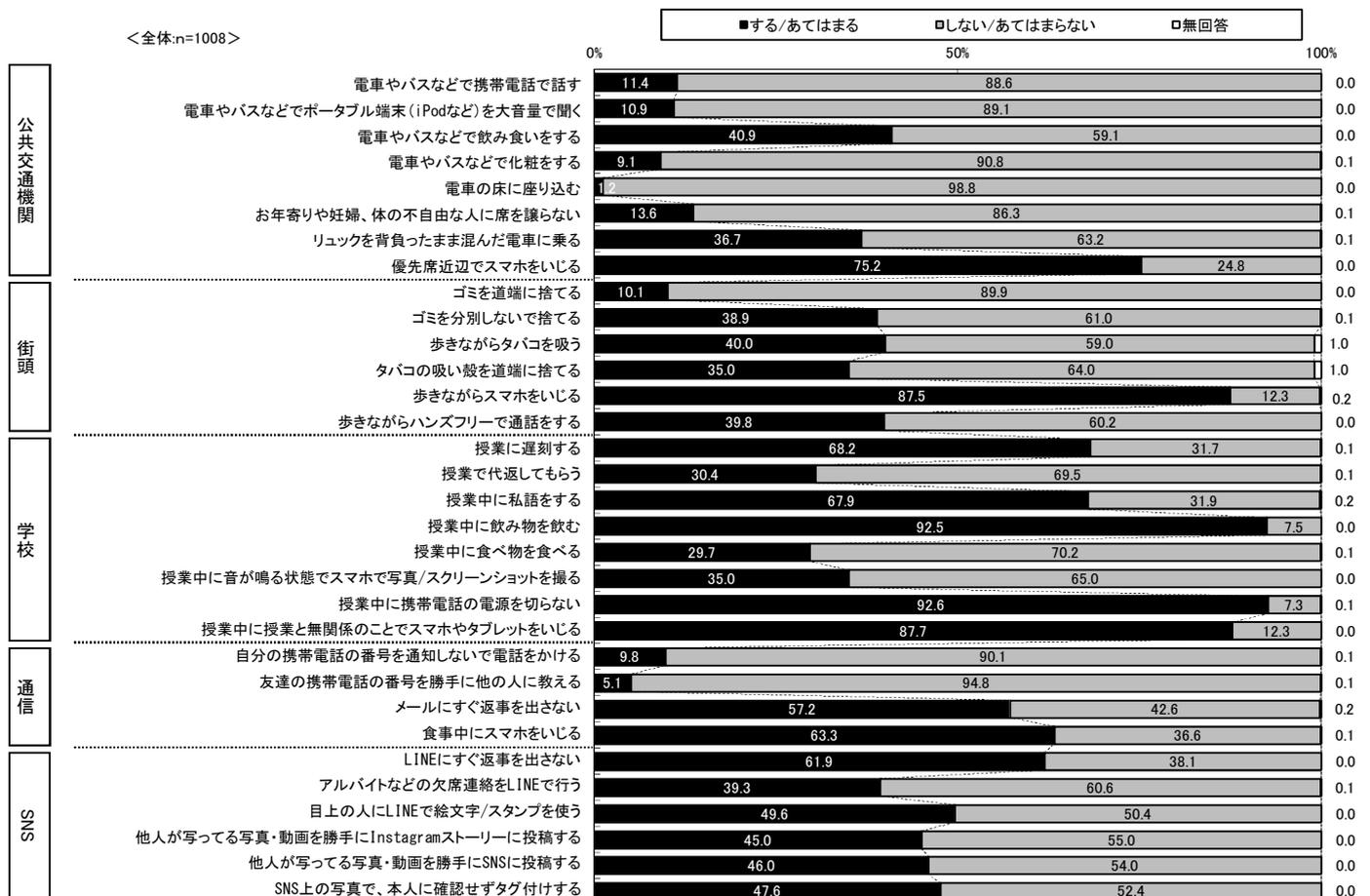
そこで、マナー違反か否か明確な判断がしにくい“グレーな”行動について、それぞれの許容度を聞いてみると、提示した7項目中5つについては「ナシ」と回答する人が7割を超える結果となった。ただし、「許可をとらずに飲食店で料理の写真を撮影すること」について「アリ」と回答した人が全体の約8割、「満員にもかかわらず、電車内でスマホをいじること」について「アリ」と回答した人が全体の約7割という結果となり、やはり携帯電話やスマホに関わる行動において、世の中が「ナシ」と思うようなことも、「アリ」と評価する大学生の独特のマナー基準が垣間見られる結果となった(図表12)。

以上のことから、現在の大学生はマナーに関して一定の知識や一般常識を持っている。しかし携帯電話やスマホに関しては、世間からマナー違反ともとれる行為を“アリ”だと思っている。どうやら、一見マナー優等生にも思えた大学生だったが、実は世の中の基準とはズレた大学生独自の判断基準(=グレーゾーン)をもっているのかもしれない。

図表12 マナー違反か否か明確な判断がしにくい行動の許容度



図表10 各シチュエーションにおける様々な行動の実践状況



【レポートピックアップ③】

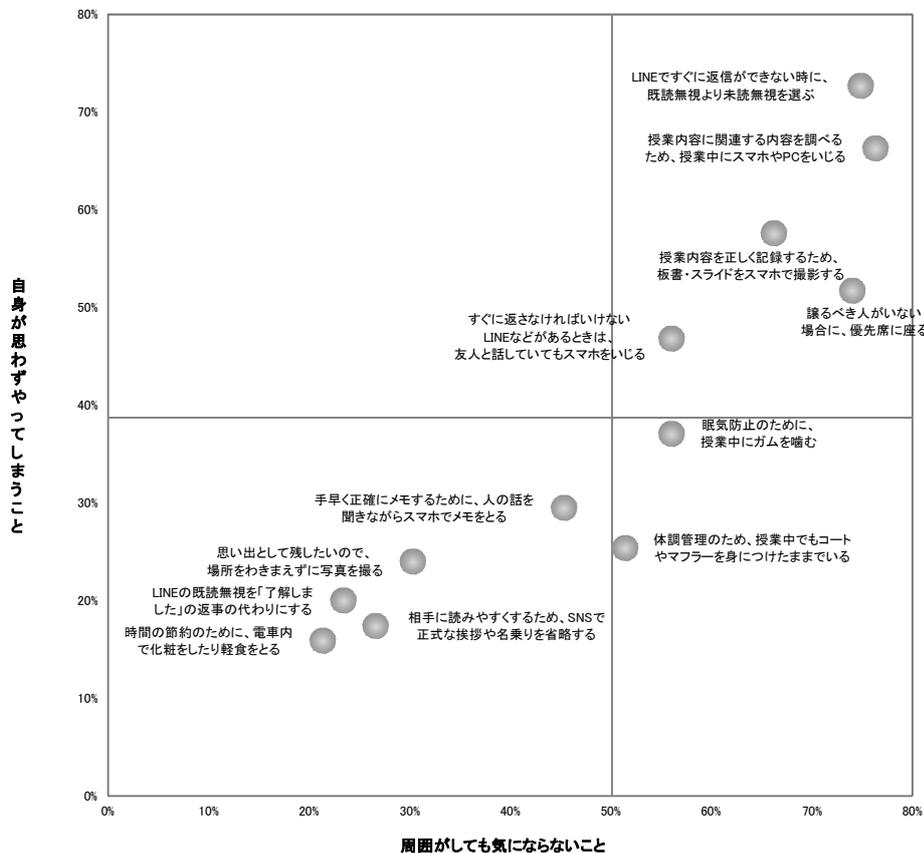
マナーの基準は、“世間の目”より“友達の間”

～人間関係に影響を与える違反はダメ、ゼツタイ。～

前章では、携帯電話やスマホの使い方に対する意識や行動において世間とはズレる大学生独自のマナー基準があることがわかった。本章では、この大学生独自のマナー基準について深掘りしていきたい。

まず、最近マナーが問われる事柄を「自身が思わずやってしまうこと」と「周囲がしても気にならないこと」の2点から評価してもらった。その結果、左下の象限（自分はやらない&他人がやると気になること）に注目すると、「時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる」「思い出として残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る」「手早く正確にメモするために、人の話を聞きながらスマホでメモをとる」等、周囲の人に明らかに迷惑な行為はやらないことがわかる。また、「LINEの既読無視を「了解しました」の返事の代わりにする」「相手に読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名前を省略する」といった普段SNSなどで繋がる友人・知人に対して無礼だと思われる行為もやらないことがわかった（図表13）。どうやら大学生がマナーを守る上で、周囲の目、特に友人・知人の目が影響を与えている可能性が高い。

図表13 「自身が思わずやってしまうこと」×「周囲がしても気にならないこと」



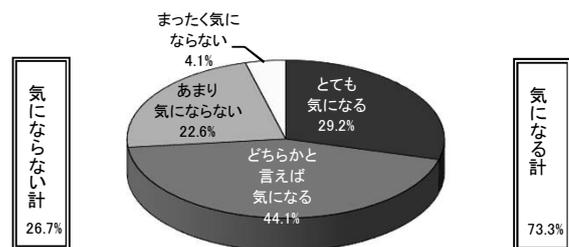
そこで日頃から、友人や知人からどう思われているか気になる方が聞いてみると、「気になる（計）」と回答した人は約7割と高い結果となった（図表14）。また、自分のことを空気が読めるタイプかどうかについても聞いてみると、「そう思う」と回答した人は全体の約7割とこちらも高い結果となった（図表15）。これらのことから、大学生は普段から友人や知人の目を非常に気にしており、マナーを守る際にもこの意識が強く働いているようだ。

また、このような意識をもった大学生同士なので、普段マナーに関して友人・知人に注意をすることが「ない（計）」と回答した人が全体の約6割（図表16）友人・知人から注意されることについても「ない（計）」と回答した人が全体の約8割という高い結果となっている（図表17）。

以上のことから、独自の基準をもった大学生がマナーを守る1つの基準は友人・知人の目であることが明らかとなった。友人・知人の前ではマナー違反をしてもいいという考えではなく、普段からLINEをはじめとしたSNSで繋がっている友人だからこそしっかりとマナーを守るといういまどきの大学生らしい守る理由が浮き彫りとなった。

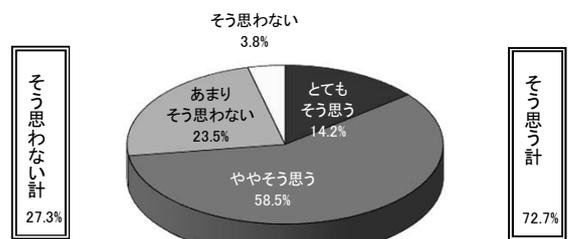
図表14 友人や知人からどう思われているか気になる方か

<全体:n=1008>



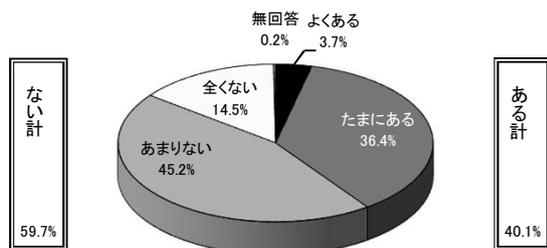
図表15 自分のことを空気が読めるタイプと思うか

<全体:n=1008>



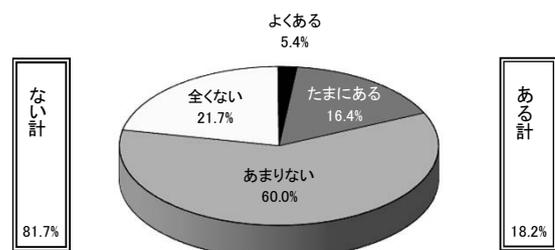
図表16 マナーに関して友人・知人に対する注意

<全体:n=1008>



図表17 マナーに関して友人・知人から注意を受ける頻度

<全体:n=1008>



【レポートピックアップ④】

「合理的」という名の自己解釈

～マナーでも無駄・非効率を嫌う大学生～

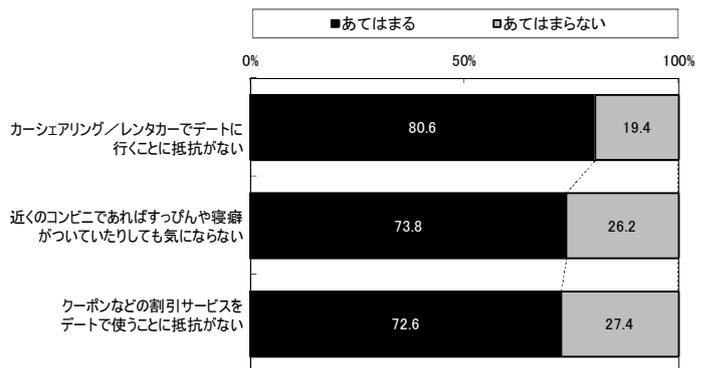
前章では、大学生が自分はやらない&他人がやると気になることについてみてきたが、本章では自分がやる&他人がしても気にならないいわゆる“世間で言うマナー違反”行為についてみていきたい。

右上の象限（自身が思わずやってしまう&他人がしても気にならないこと）に注目すると、「LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ」「すぐに返さなければいけないLINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる」については、前章の「守る理由」であげた「友人・知人の目」を配慮した結果の行動実践であることが伺える。また、それ以外の「授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる」「授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する」「譲るべき人がいない場合に、優先席に座る」については、時間や場所の無駄に対して効率化することを優先し、多少のマナー違反を合理的に解釈し、許容する大学生のもう一つのマナー基準が明らかとなった（図表18）。

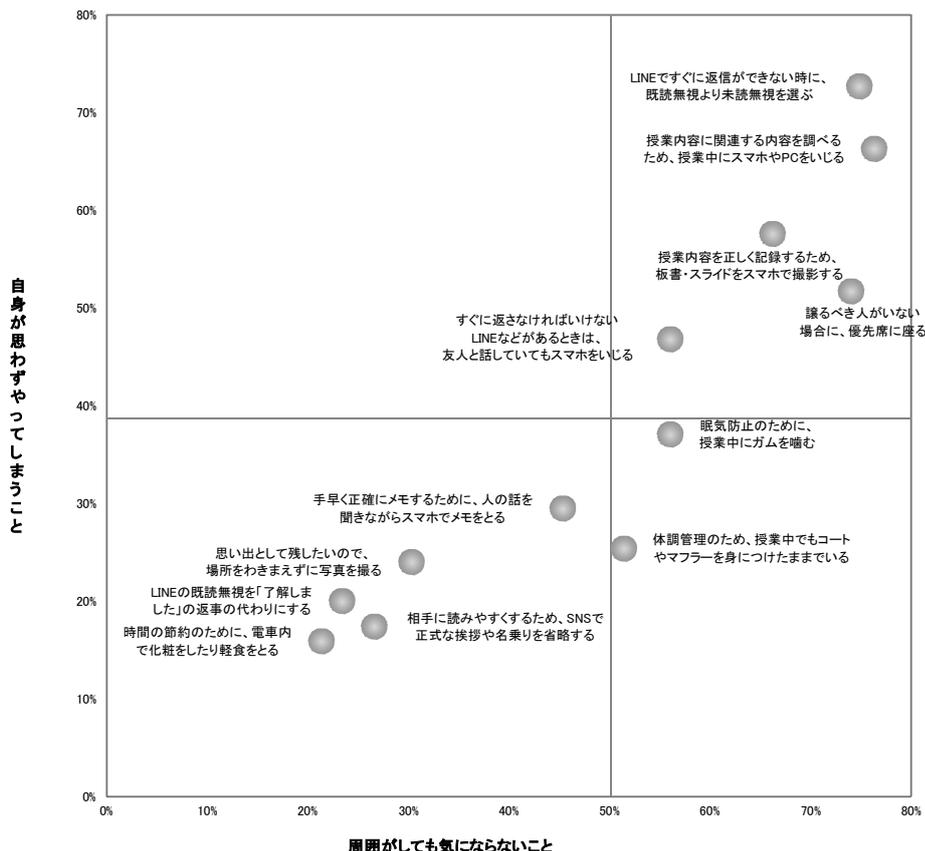
このような、無駄を嫌い、効率化することを良しとする大学生の価値観は、日常生活での行動にもみられる。様々な“いまどき”の日常行動について「あてはまる」ものを聞いたところ、「カーシェアリング/レンタカーでデートに行くことに抵抗がない」が約8割と最も多く、次いで「近くコンビニであればすっぴんや寝癖がついていたりしても気にならない」、「クーポンなどの割引サービスをデートで使うことに抵抗がない」がそれぞれ約7割を超え、上位を占める結果となった（図表19）。これらのことから、現在の大学生の日常生活からも目的達成のためには、自分にとって合理的な手段を迷わず選ぶという意識がみとれる。

図表19 日常生活での行動

<全体:N=1008>



図表18 「自身が思わずやってしまうこと」×「周囲がしても気にならないこと」

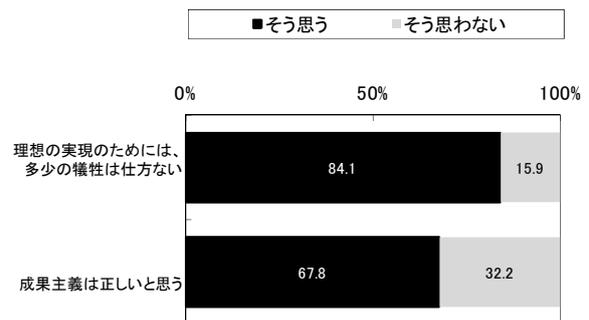


また、「理想の実現のためには、多少の犠牲は仕方ない」という意見にも「そう思う(計)」と回答した人は約8割、「成果主義は正しいと思う」という意見では、約6割を超えている(図表20)。さらに、単刀直入に合理的なタイプかどうかについても聞いてみると、「そう思う(計)」と回答した人が半数を超える結果となった(図表21)。これらのことから、現在の大学生には、目的を達成するためには合理的な判断が必要だという価値観が備わっているようだ。

以上のことから、スマホやSNSといった利便性の高いテクノロジーを使いこなす大学生にとって、板書のメモを取るよりも、写真をとった方が正確に記録できるといったように、無駄を徹底的に省くことで目的を達成させるという合理的な解釈がマナーの基準をグレーにしていることがわかった。この合理的な解釈が世の中の認識とズレを生み出す要因かもしれない。

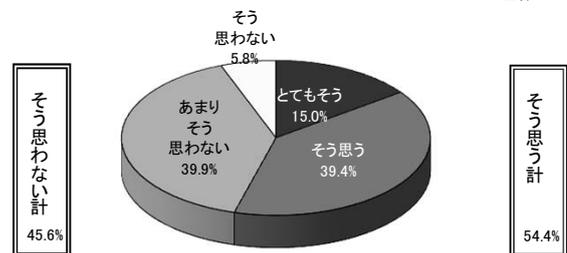
図表20 生活意識に関する価値観

<全体:n=1008>



図表21 合理的なタイプかどうか

<全体:n=1008>



【レポートピックアップ⑤】

引き継ぎたい伝統、引き直したい基準

～マナー先進国に生きる大学生の誇りと本音～

ここまでは、友人・知人に配慮するマナー意識と無駄を嫌う意識を重視した行動が加わることで、「大学生ならではの独自の判断基準」が形成されていることが分かった。本章では、彼らが日本のマナーについてどう考えているのかを明らかにしていきたい。

まず、日本はマナー先進国だと思うかと聞いたところ、「そう思う(計)」と回答した人は約8割という結果となった。また、マナーに関する様々な意見について聞いたところ、「日本人は、外国人に比べてマナーが悪いと思う」という項目に対して「そう思う(計)」と回答した人は約2割という少ない結果となった(図表22)。

さらに、日本に古くからある礼儀・しきたりについての考えを聞いたところ、約6割の人が「重要だと思うし、今後も引き継いでいべき」と回答した(図表23)。具体的な理由を聞いたところ、「海外にはない日本古来の伝統・文化だから」が196人と最も多く、次いで「人間関係において重要だから」89人、「敬語は日本の国民性を表しているから」50人という結果となった(図表24)。また、日本で広く浸透しており、海外に伝えたい／浸透してほしいと思う項目を聞いたところ、「財布などが落ちていたら交番に届ける」が最も多く、次いで「公共の施設をきれいに使う」、「時間を守って行動する」、「食事の前後に『いただきます』、『ごちそうさま』を言う」、「駅や買い物などで整列する」という結果となった(図表25)。

一方で、日本に古くからある礼儀やしきたりについて「重要だと思うが、今後なくなっても仕方がない」と回答した人約3割の人に対して、その理由を聞いたところ、「時代の変化やグローバル化に伴い、価値観の変化や多様性を受け入れるべきだから」という回答が最も多いという結果となった。(図表26)

これらのことから、現在の大学生は日本のマナー水準の高さに誇りを持ち、伝統・文化的な側面を残したいと思う一方で、時代の変化や技術の進歩に加えて、多様性の観点から、今の世の中にそぐわないルール・マナーをアップデートしたいという考えも持っているようだ。

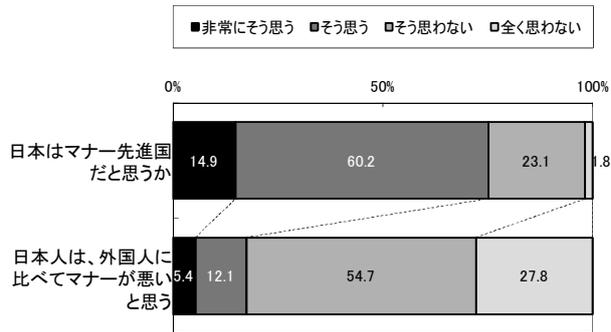
図表24 礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいべきと思う理由

<礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいべきと思う人ベース:n=608>

順位	礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいべきと思う理由	人数
1位	礼儀やしきたり、敬語は、海外にはない日本古来の伝統・文化だから	196人
2位	挨拶や言葉遣いは人間関係において重要だから	89人
3位	礼儀やしきたり、敬語は日本の国民性を表しているから	50人
4位	礼儀やしきたりを引き継ぐことでマナーが改善されたり、新しいマナーが生まれるから	42人
5位	相手を思いやる気持ちは大事だから	39人

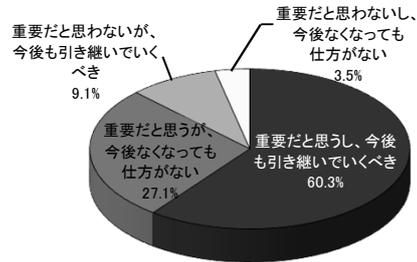
図表22 日本/日本人のマナーに関する意見

<全体:n=1008>



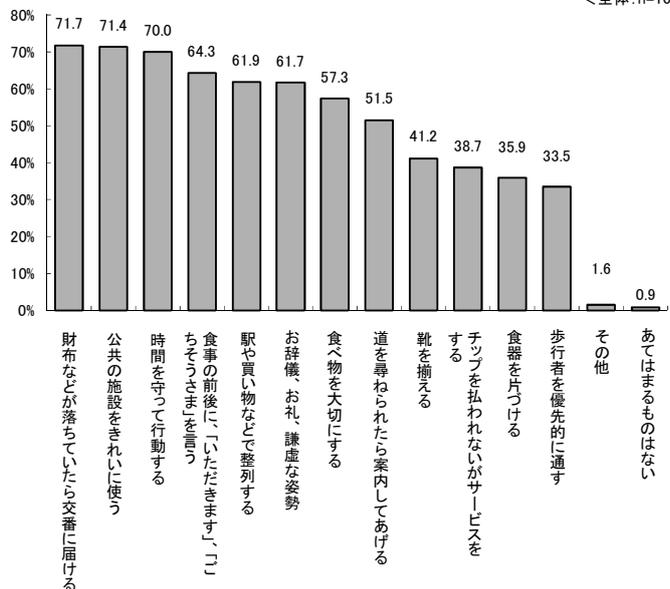
図表23 日本に古くからある礼儀・しきたりに対する意識

<全体:n=1008>



図表25 日本で広く浸透しており、海外に伝えたい／浸透してほしいと思う項目

<全体:n=1008>



では、彼らは今後、どのような部分をアップデートすることで、よりよいマナーを作ることができると考えているのだろうか。

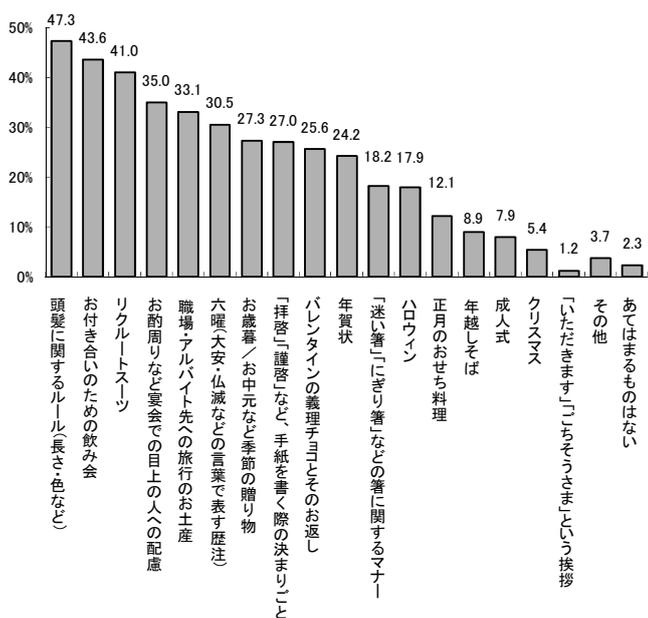
世の中のマナーの中で不要なマナーがあるかと聞いてみると、約4割が「時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じている」と回答している（図表27）。具体的なマナーとして、「（長さや色など）頭髮に関するルール」「お付き合いのための飲み会」「リクルートスーツ」「お酌回りなど、宴会での目上の人への配慮」などが上位に挙がった（図表28）。ここには、前章でみた、今の大学生のもつ、無駄を嫌い、効率化を求めるといった合理的な性質もみてとれる。

さらに、日本をマナー先進国としてより良くしていくために、思い切って取り組むべきだと思うことを聞いたところ、「ポイ捨ての厳罰化」と回答した人が約6割であったが、「電車内でのスマホ/携帯電話の利用を一切禁止する」と回答した人は1割を切る結果となった（図表29）。これらを見ると、グレーゾーンであるスマホや携帯電話に関しては、彼らにとってはこれからのマナーの領域の外側にあるもの、と捉えられているようだ。

以上のことから、現在の大学生は、日本のマナー水準に誇りを持っており、「おもてなし」に代表されるような日本独自の礼儀やしきたりについては、引き継いでいきたいと思っている。同時に、マナーを時代の変化に合わせて合理的に取捨選択をし、日本のマナーをアップデートしていききたいと考えているようだ。

図表28 具体的な時代遅れ・無意味だと思うマナー

<全体: n=1008>



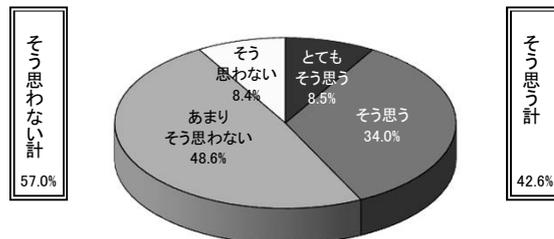
図表26 礼儀やしきたりを重要だと思うが、今後なくなっても仕方ないと思う理由

<礼儀やしきたりを重要だと思うが、なくなっても仕方ないと思う人ベース: n=273>

理由	人数
1位 時代の変化やグローバル化に伴い、価値観の変化や多様性を受け入れるべきだから	93人
2位 使う機会自体が少なくなっているということは、無くて人間関係に支障が全く必要ないということの意味するから	34人
3位 学校や親など教育機関自体があまり機能しておらず、礼儀やしきたりについての正しい知識が若い世代に伝承されていないから	32人
4位 そもそも面倒であり、人間関係がスムーズになっているか実感できないから	16人
5位 現代の若者は、日本の礼儀やしきたりに対する重要度が低い傾向があり、今後さらに意識が低下すると思うから	14人

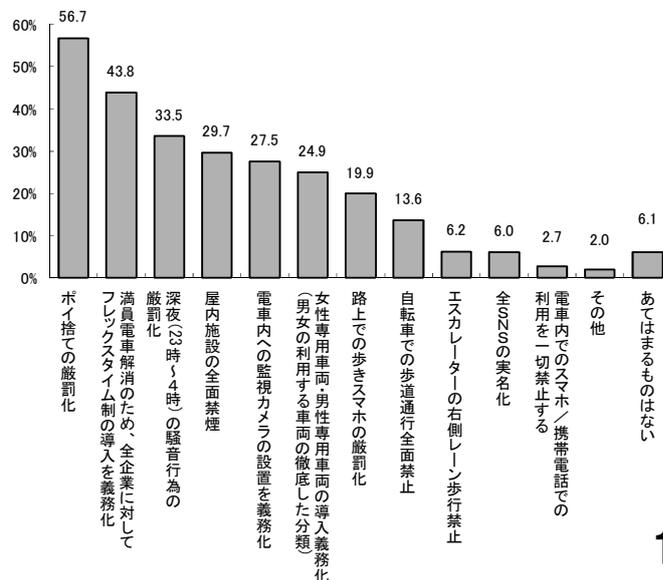
図表27 時代遅れ・無意味なマナーが多いと思うか

<全体: n=1008>



図表29 マナー先進国として思い切って取り組むべきこと

<全体: n=1008>



【定点観測結果】

～大学生の好きな広告・今年の日本の顔～

KDDI/auの「三太郎」シリーズが3年連続好感度ナンバーワンに!

大学生の好きな広告は、昨年と同様「KDDI/auの『三太郎』シリーズ」がナンバーワンとなった。そして、2位も昨年同様、赤ちゃんとライオン(犬)で反響を生んだ「Amazon/アマゾンプライム」がランクイン。また、昨年5位だった「大塚製薬/ポカリスエット」が2つ順位を上げてベストスリーに入った。

<全体:n=1008>

1位: KDDI/au/「三太郎」シリーズ	116人	(男性 71人 : 女性 45人)
2位: Amazon/アマゾンプライム	19人	(男性 9人 : 女性 10人)
3位: 大塚製薬/ポカリスエット「鬼ガチダンス」シリーズ	16人	(男性 10人 : 女性 6人)
4位: 住友生命保険相互会社/1UP	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位: NTTドコモ/25周年CM「いつか、あたりまえになることを。」	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位: ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人	(男性 6人 : 女性 1人)
7位: カルピス株式会社/カルピス	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
7位: マウスコンピューター/「マウスダンス」篇	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
9位: NTTドコモ/dTV/「ふたりをつなぐ物語」篇	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: リクルート/じやらん	5人	(男性 2人 : 女性 3人)
9位: リクルート/ゼクシィ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: 東京メトロ/「Find my Tokyo」シリーズ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	5人	(男性 1人 : 女性 4人)

▼参考: '16年度結果 (全体:n=816)

1 KDDI/au/「三太郎」シリーズ	129人
2 AMAZON/アマゾンプライム	38人
3 資生堂/SEA BREEZE/「トライアングルシリーズ」	13人
4 オリエンタルランド/東京ディズニーリゾート	8人
5 ポカリスエット「エール」篇	7人
5 ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人
7 JR東海/「京都の紅葉」篇	5人
8 JR東日本/「JR ski ski」シリーズ	5人
9 NTTドコモ/ドコモカード/中条あやみ	5人
9 キリン/一番搾り「しあわせ一番町 47都道府県の一搾り」篇	5人
9 サントリー/ザ・プレミアム・モルツ	5人

▼参考: '15年度結果 <全体:n=816>

1 KDDI/au/「英雄」シリーズ	63人
2 サントリー/ペプシネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	17人
3 SEA BREEZE/広瀬すず・中川大志	10人
4 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	9人
5 JR東日本/「JR SKI SKI」シリーズ	8人
5 ルミネ/小松菜葉	8人
7 RIZAP/「つぎつぎとイケイケ」篇	7人
8 サントリー/GREEN DA・KA・RA/しずくちゃん	6人
9 大塚食品/MATCH/広瀬アリス・広瀬すず	5人
9 カルピス/カルピスウォーター/広瀬すず・長澤まさみ	5人
9 ジョージア/「マニフェスト」篇/山田孝之	5人

▼参考: '14年度結果 <全体:n=800>

1 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	23人
2 サントリー/ペプシネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	20人
3 サントリー/GREEN DA・KA・RA/「グリーンダカラちゃん」シリーズ	18人
4 カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈	13人
5 TOYOTA/「TOYOTOWN」シリーズ	10人
6 サントリー/ふんわり鏡月/石原さとみ	8人
7 日本コカ・コーラ/コカ・コーラ	7人
7 日清食品/カップヌードル/「壁ドン」篇	7人
9 ルミネ/橋本愛	6人
9 家庭教師のトライ/「ハイジとクララ」シリーズ	6人

最近1年間の日本の顔は、5年連続、安倍晋三首相に

今年の「日本の顔」は「安倍晋三」首相が190票を獲得し1位。次いで、東京都知事の「小池百合子」が157票を獲得し2位、「小林麻央」が44票で3位という結果に。

<全体:n=1008>

1位: 安倍晋三	190人 (男性109人: 女性 81人)
2位: 小池百合子	157人 (男性 55人: 女性102人)
3位: 小林麻央	44人 (男性 9人: 女性 35人)
4位: 藤井聡太	38人 (男性 24人: 女性 14人)
5位: 菅田将暉	35人 (男性 12人: 女性 23人)
6位: ブルゾンちえみ	25人 (男性 6人: 女性 19人)
7位: ピコ太郎	23人 (男性 15人: 女性 8人)
8位: 広瀬すず	19人 (男性 9人: 女性 10人)
9位: マツコ・デラックス	15人 (男性 6人: 女性 9人)
9位: 松居一代	15人 (男性 9人: 女性 6人)
9位: 星野源	15人 (男性 6人: 女性 9人)

▼参考: 2016年の今年の顔 <全体:n=816>

1位: 安倍晋三	156人
2位: 舛添要一	85人
3位: ベッキー	56人
4位: イチロー	41人
5位: リゅうちえる	36人
6位: 錦織圭	31人
6位: 五郎丸歩	31人
8位: マツコ・デラックス	21人
9位: 山崎賢人	20人
9位: 長友佑都	20人

I 世の中のマナー意識について	
世の中のマナー全般の現状評価	22
世の中のマナー全般の変化	23
世の中のマナーが変化したと思う理由	24
マナーの変化	25
マナー問題の許容意識	27
タブー内容認知	29
マナーが悪いと思う人々	31
II 普段の生活について	
マナー遵守度	33
マナー意識	34
やってはいけないと思いついやってしまうこと	36
マナー違反の実践状況	37
周囲がしても気にならない・仕方がないと思うこと	40
自身が思わずやってしまうこと	41
周囲がしても気にならない×自身が思わずやってしまうこと	42
時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じるか	43
時代遅れ・無意味と感じるマナー	44
友人・知人からマナーに関して注意を受ける頻度	45
友人・知人からマナーに関して注意をされたときの気持ち	46
他人からマナーに関して注意を受ける頻度	47
他人からマナーに関して注意をされたときの気持ち	48
友人・知人にマナーを注意する頻度	49
他人にマナーを注意する頻度	50
自己評価:家庭のしつけ	51
自己評価:マナー教育	52
積極的にしつけ・注意を行うべき人々	53
日本はマナー先進国か	54
古くからの礼儀やしきたり:評価	55
古くからの礼儀やしきたり:評価理由	56
より良いマナー先進国を目指して取り組むべきこと	58
海外に伝えたい・浸透してほしい日本のマナー	59
III 大学生の実態と意識について	
スポーツ系・体育会部活動の所属状況	61
自己評価:友人・知人からどう思われているか気になる	62
自己評価:空気が読めるタイプだと思う	63
自己評価:自分はワガママだと思う	64
自己評価:合理的なタイプだと思う	65
生活価値観①	66
生活価値観②	67
IV 定点観測	
大学生が選ぶ最近1年間の日本の顔	71
好きな広告	72
広告への普段の関心	73
広告に対する意見	75